

日原 公大

Hihara Kodai



<略歴>

1972年3月 東京芸術大学芸術学修士課程彫刻科を修了

1972年4月 東京芸術大学美術学部研究生

1973年6月から1977年9月までフランス政府国費留学生としてパリ国立美術学校在学。サロン・ド・メ、サロン・ド・トゥーロン、サロン・ド・トンヌなどに出品

2016 Terra 国際彫刻シンポジウム（セルビア）、日・韓芸術交流展（宇都宮）、ソーノフェリチエ GC 国際ワークショップ（韓国大明）、高尾国際芸術博覧会（台湾）

2017 第1回アーティスト・イン・レジデンス大田原（芸術文化研究所）、GOFFO 高陽市アウトドアシンポジウム（韓国）、AAB ギャラリー企画・日本展（フランス・パリ）

2018 台湾二紀展（台湾芸大展示場）、台北アートフェア（台湾）、第19回那須野が原国際芸術シンポジウム（大田原）、

2019 第2回アーティスト・イン・レジデンス大田原（芸術文化研究所）、三儀木彫美術館（台湾）、日韓彫刻ビジョン展（芸術文化研究所）、シューボックス展（台湾芸術大学）

2020 陶彫展（東京都美術館）、日本当代名家彫刻展（台湾）

現在： 宇都宮大学名誉教授、一般社団法人二紀会委員（常務理事）、日本陶彫会長、栃木県文化協会常任理事、大田原市街角美術館運営委員、那須野が原国際彫刻シンポジウム（オルガナイザー）、大田原市芸術文化研究所長

<コメント>

心の奥に潜む憧れや望み不満など、得体の知れない物の正体を知りたいと希求しています。日々、それが何で、何者であるか彫刻を通して具現化するために、デッサンを書きエスキースなどを作ります。表すべきものの形が臆気に決まるころ彫刻素材選びに入ります。とは言っても素材を決めた時は、何となく形は見えているのですが不安で確証は何もありません。その結果、様々な素材を扱うようになり、同時に複数の作品を手掛け途中で投げ出し、何年も前の彫刻を手直しする等、一貫性のない手法に自分でも呆れる制作態度です。挙句にいつも時間に追われ、私の彫刻は陽の目を見ない常に半端なものばかりです。しかし、芸術は作者を含め、人々に幸福感をもたらします。嬉しさや愛おしさを彷彿させ、生きる活力と勇気を与えてくれます。人の心に優しさを芽生えさせるものだと信じています。最近、人間が彫刻と一体化出来るものを作りたいと考える様になり、視ること、触ること、そして、想いの中で遊ぶことの出来る彫刻を創出したいと願っています。